

# 上角 公民館総合優勝



## 梓川地区運動会 2017

10月9日(祝・月) 爽やかな秋晴れのもと、地区運動会が梓川小学校の校庭で開催されました。



### 天国と地獄

走路途中でのじゃんけんの勝敗が、最終的な結果にも大いに影響する10人によるリレー形式の種目です。勝てばそのままターンをして次の走者にリレーすることができですが、負けるとペナルティが科せられ、余分に走らなければなりません。じゃんけんをする走者と相手となる公民館長さんたちの真剣な顔つきがとても印象的でした。

### タルこるがし

この種目は、その名の通り二本の棒を使ってタルを転がしていく、各公民館男女4人によるリレーです。タルが思い通りに転がらず苦戦する人や、二本の棒を巧みに操って駆け抜けていく人など、ど

### 缶釣り競走

昨年までの「パン食い競走」に替わる新種目で、缶を上手に釣り上げることができると勝敗に大いに影響する種目です。55歳以上の方が対象となる種目ですが、皆さんとても上手に缶を釣り上げて、運んでいる様子が印象的でした。



▲缶釣り競走

### 大玉送り

恒例の大玉送り。座席番号で紅白に分かれます。「まったく大玉に触れなかったよ」「ちよっとだけ触れたよ」など、楽しい様子の会話も聞かれました。白組の2勝となりましたが、最後の最後まで勝負の行方がわからない接戦になりました。

### 靴・スリッパをばし選手権

小学生の部では、助走をつけ目一杯足を振り上げて、遠くまで靴を飛ばそうとしていました。子供たちの勢いに乗せられたのか、一般の部でも勢いよくスリッパを飛ばしていたのが印象的でした。

### ラブゲーム

風船を割ろうと必死になつて2人で挟んでも、なかなか割れないペアが続出しました。観客の温かい声援の中、あの手この手を使い、風船を割ろうと奮闘していました。

### 町会対抗リレー

毎年、一番の盛り上がりを見せる「町会対抗リレー」。一



▲大玉送り



▲町会対抗リレー

## 競技結果

優勝	上角公民館
準優勝	角影台公民館
第3位	上立田公民館
第4位	上大妻公民館
第5位	上野公民館
第6位	杏公民館

方はケガ人も後を絶たないのもこの種目です。今年はコーラス中盤に、「瓶立て」と「空き缶積み」が設けられ、一発逆転も可能な競技にマイナーチェンジしました。今年、大きなケガをする人もなく、見ている人も参加している人も楽しい運動会になりました。

# 嵐の前の立田祭

10月22日(日)に第41回立田祭が上立田会館において開催されました。

当日は台風22号が近づき、あいにくの天候となつてしまつたため、恒例の子供神輿は残念ながら中止となりました。また、名物のチンドンバンドも屋外での生演奏ではなく、トラックで音楽を流しながら、町内をまわりました。

綺麗に飾り付けられた会場内では、祭り開始とともに福引やバザー、書や絵などの作品展が始まり、大勢の方々で上立田会館はいっぱいになりました。綿あめやポップコーン・おでん・うどんはすべて無料です。



外で行うことのできなかつたチンドンバンドの生演奏は屋内で奏でられ、ステージ発表では女性の方々によるヨサコイ踊りに始まり、年配の方々の混声合唱、男性の独唱、ダイク・テツカ氏による手品、子供たちによる踊り、女性の独唱、カラオケが行われました。上手い下手はともかくとして、どの発表も一生懸命さが伝わり、会場は大いに盛り上がりました。

最後は、全員によるじゃんけん大会が行われ、豪華景品が渡されていきました。

立田祭を通じて、上立田住民の絆の強さを、改めて感じました。来年も町内のみならず全員で楽しみたいものです。

# 震災の教訓を学んだ公民館旅行

## ― 岩岡公民館 ―

9月3日(日)に岩岡公民館恒例の分館旅行を実施しました。今年の旅行は新潟県小千谷市のおぢや震災ミュージアムそなえ館と錦鯉の里が主目的。朝7時に集合した41人は、各自思い思いに目的をもつて長野自動車道を一路小千谷市に向けて出発しました。車内ではさっそく朝の冷たいビールで乾杯。普段はあまり話のできない人と、いろいろな話題の話が弾みました。

え館は新潟県中越えの伝承と防災当時の揺れを体験できるシートに座った人は「こんなすごい揺れならその場でうずくまることができないよ」と言っていました。地域防災は自助共助が重要。隣近所と普段からのコミュニケーションが重要であることを感じました。そなえ館の次は、錦鯉の里を見学。その後昼食は寺泊で新鮮な海の幸を堪能し、沢山の魚介類のお土産を手土産に帰路につきました。この旅行で親睦を深め、有意義な一日を過ごすことができました。

バスは10時半頃、震災ミュージアムそなえ館に到着。そな

### 認知症は早めの対処が将来を決める!

丸の内病院の上嶋育美さん(北大妻)は、認知症看護認定看護師として専門知識を活かし、患者ケアや院内外の研修講師として活躍されています。今回認知症についてお話を伺いました。認知症高齢者は二〇二五年には七百万人(五人に一人)になると見込まれています。物忘れが多いと認知症ではないかと不安を感じますが、加齢による物忘れと認知症によるものには大きな違いがあります。加齢による物忘れは昨日のおかずを思い出せないなど体験の一部の欠

